

第5期雄武町総合計画 前期実施計画書 兼 事務事業事後評価調書

No. 0902004

政策目標	1 はつらつ・雄武～地域産業の振興～	会計区分	1 一般会計	【全体計画内容】※前期実施計画期間外の計画期間を有する場合のみ記載
基本施策	2 林業の振興	事業優先度	A	
単位施策	1 生産体制の強化	政策事務分類	2 単独自治事務(個別計画)	
事業名	町有林造林事業	見直し年度		
事業期間	平成20年度～平成24年度	担当課	9 産業振興課	
事業主体	雄武町	関係課	#N/A	
事業指標	森林施業の計画的推進	関係課	#N/A	
事業目標	人工造林 A=24.84ha	ハード/ソフト 事業区分	1 ハード事業	
住民参加	2	関係例規・法令名		
住民協働		関係個別計画名	1 ⇒	

121	全体計画 事業内容	平成20年度 事業内容	平成21年度 事業内容	平成22年度 事業内容	平成23年度 事業内容	平成24年度 事業内容		
計画内容	・人工造林 A=24.84ha	人工造林 A=5.0ha 作業路開設 L=800m	人工造林 A=5.0ha	人工造林 A=5.0ha	人工造林 A=4.84ha	人工造林 A=5.0ha		
計画事業費	事業費(千円)	21,750	5,000	4,400	4,400	3,850	4,100	
	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	13,650	2,800	2,700	2,700	2,700	2,750	
	地方債	0						
その他	1,000				1,000			
一般財源	7,100	2,200	1,700	1,700	150	1,350		
実績事業費	事業費(千円)	20,877	4,473	4,397	4,232	3,785	3,990	
	財源内訳							
	国庫支出金	0						
	道支出金	13,733	2,816	2,861	2,808	2,535	2,713	
	地方債	0						
その他	2,424			1,424	1,000			
一般財源	4,720	1,657	1,536		250	1,277		
関連事項	(特定財源の詳細等) ○町有林新植造林事業補助金	【評価・実績】	(実施内容等) 人工造林 A=5.0ha	(実施内容等) 人工造林 A=5.0ha	(実施内容等) 人工造林 A=5.0ha	(実施内容等) 人工造林 A=4.84ha	(実施内容等) 人工造林 A=5.0ha	
			※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	※前年度評価結果 A-継続/現状維持	
	第4期総合計画関連 (継続有り)	年度目標値	人工造林 A=5.0ha	人工造林 A=5.0ha	人工造林 A=5.0ha	人工造林 A=4.84ha	人工造林 A=5.0ha	
		年度達成率		89%	100%	96%	98%	97%
		全体達成率		21%	41%	60%	78%	96%
	事業進捗状況	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆	☆☆☆☆		

事業名	町有林造林事業	評価者 管理職 職氏名	産業振興課長	石井 弘道
		評価者 作成者 職氏名	林務係長	福田 泰弘

■事務事業の目的・内容(Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	町有林	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)	人工造林 A=5.00ha		
【抱える課題やニーズは】	無立木地の解消		指標(指標計算式/解説)	目標値及び実績値	
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	国土の緑化及び森林資源の確保		① 人工造林面積 /人工造林の実績面積	目標年度	平成24年度
				目標値	5 ha
【その結果、どのような成果を実現したいか】 ※成果=目的	森林資源内容の充実と生産力の増強を図り、森林の持つ多様な機能を高度に発揮させる。		②	実績値	5 ha
		達成度		100.0 %	
		目標年度		年度	
【内容(どのような手段で何を行ったか)】	①新植造林の実施	国土の緑化及び森林資源の確保を図るため、町が所有する無立木地に植栽する事業を実施。			

■事務事業の評価(Check)

(1)事務事業の必要性(町民ニーズ、社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事業を実施しない場合の支障、既存事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要	<input type="checkbox"/>	義務的なもの	町が所有する無立木地の解消を図るとともに、森林の持つ多面的な機能の有効活用を高度発揮させるため、計画的な人工造林を推進することは必要である。当該事業を実施しない場合、森林資源の確保や町土の保全など森林の持つ多面的な機能の有効活用に影響を及ぼす。
必要/概ね必要	<input type="checkbox"/>	全部	
/課題あり	<input type="checkbox"/>	一部	

(2)事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効	設定した目標値の達成状況	森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、併せて、森林の持つ多様な機能の高度発揮に寄与した。
	<input checked="" type="checkbox"/> 達成	
有効/概ね有効	<input type="checkbox"/> ほぼ達成	
/課題あり	<input type="checkbox"/> 下回る	

(3)事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上的コストを下げる工夫をしたか)

効率的	判断の理由	公共造林補助事業の対象事業であり、北海道が示す標準単価を参考にして造林事業を実施していることから、事業コストは妥当である。また、事業実施にあたっては、補助事業の要件を充たす必要最低限の整備を行うように努めている。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制	
	<input type="checkbox"/> 人員削減	
効率的/概ね効率的/課題あり	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

(4)事務事業の公平性

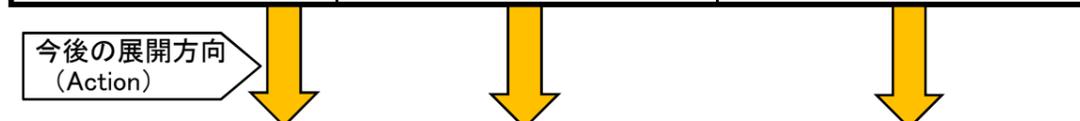
公平	判断の理由	国の実施要領(森林環境保全整備事業)で定められている負担区分に則って負担している。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある	
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がない	
公平/概ね公平/公平でない	<input checked="" type="checkbox"/> その他	

■その他特記事項(アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

■総合評価【A~D】

A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等
 B: ほぼ計画どおりに進んでいるが目標を達成していない。事業の進め方に改善が必要 等
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A		
この事業の実施により、森林資源内容の充実と生産力の増強が図られ、併せて、森林の持つ多様な機能が高度に発揮されるので、計画どおり事業を進めることが適当と判断する。		



継続/現状維持		
本事業については、町有財産の形成のみならず、林業生産力の向上や地域経済への効果が見込まれるものであることから、引き続き最優先して実施すべき事業であり、当分は現状維持が適当である。		

※展開方向の区分
 継続/現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更
 終了 休止 廃止